

MUTSUZAWA JOURNAL

vol.1

2018

TAKE
FREE

MUTSUZAWA KEI-TRA STATION

点検してもらえる？

いつも頑張ってくれてるもんねえ～

アイラブ軽トラ

～みんなの相棒～

「なくてはならないものなんだよ」

合言葉のようにみんなが言う。

程よく広がる田園風景の中、
文句も言わず与えられた仕事を黙々とこなす。

派手さもファッション性もないんだけど、
その健気な仕事っぷりと真面目さは、ある意味カッコいい。

小さな体なのに力強くって、何より男前！
まさに“いいやつ”なんだよ。「軽トラ」って。
だから頼れる「みんなの相棒」なんだろうなあ。

GO!GO! MUTSUZAWA





我が人生、エンジンと共に 睦沢町在住 宮崎秋徳

秋徳さんは、生粋のエンジンマニアだ。自動車の修理工から始まり、重機の開発に携わった経験もある。今は天然ガスを採掘する会社で、必要な機械の製作を請け負っている。重々しい機械と無骨な部品が並ぶ「倉庫の番人」だと言う。

まさにエンジンに纏わる仕事一筋の人生だ。「長生郡市石油発動機愛好会」。古い発動機を修理し蘇らす。復活した時は「ほらみる！」と豪語する。その醍醐味は、発動機を作った当時の製作者に挑み、打ち勝ったという自負もあるだろう。「壊れたものは直す。人間が組んだものなんだから、人間が直せないはずがない」そのキャッチフレーズは、秋徳さんの信念そのものだ。

「長生郡市石油発動機愛好会」の晴れ舞台は、秋の商工まつりと観光まつりの年2回のイベントだ。メンバーが手がけた発動機を持ち寄り、一斉に動かす。爆音と煙が立ち込め、何だ何だと人が集まる。その光景は、昔懐かしいSLの復活と似たものがあるだろう。秋徳さんが手がけた発動機は幾台もある。その中で、「東京市」のエンブレムが付いた、大正から昭和にかけて活躍したであろう発動機が、一番の自慢で、一番の宝物なんだと話す。

当然、車もバイクも大好きだ。今も数台の車とバイクを所有している。自宅の納屋がガレージがわりで、所狭しと車とバイクと発動機が共存している。秋徳さんの歴史は、いつも愛車と共にある。ポケットから出されたヨレヨレの小さなフォトブック。若かりし頃の愛車との記念写真が綴られている。そしてそれぞれの愛車とのエピソードを懐かしそうに語ってくれる。

軽トラとの出会いは、父から譲り受けた「HONDA TN360」。そして現在、日常の足として欠かさず乗っているのも80年代の軽トラだ。「この地では、軽トラは欠かせない道具。当然4WDでないとダメだね(笑)」と。

懐かしい思い出話と武勇伝。その話の中に「形見」という言葉が時折出てくる。ただ車が好きと言うだけでなく、家族との絆にも車が関係している。晴れた日にしか乗らない88年製のフェアレディZ。それは兄が大切にしていたZ。他界した兄が残していた、形見の車。整備を施し、今でも快調にZらしい走りをしてくれる。

兄の車庫には、Zに並んで古い軽トラもあるそうだ。もう何十年も止まっていたままで、ゴミが山のように積まれているらしい。その軽トラもまた、兄が父から譲り受けた形見の軽トラだ。親兄弟三代目は秋徳さんが受け継ぐ。「昭和40年代の軽トラで、排気量も360cc。こいつをいつか復活させたいんだよね」と秋徳さんは言う。

その言葉には、ゴミに埋もれた軽トラをただ復活させたいというだけではなく、エンジンマニアとしての魂、形見にもう一度目の目をという、謂わば運命的な使命というか、宿命のようなものを感じているように思える。父が乗り、兄が受け継いだ軽トラ。それは紛れもなく、家族が歩んだ軌跡の証でもあるだろう。

年の瀬も押し迫った29日。秋徳さんのガレージである納屋にお邪魔した。当然マニアックな納屋であることは想像していたが、納屋を見るなり、圧倒された。お世辞にも片付いた納屋とは言えない。何のパーツかわからないものが散乱し、無造作に並べられたバイクたちを、避けながらでないと歩けない。「断捨離だっけ？ 片付けようと思っても全部必要なものなんだよ」と苦笑い。

納屋は大きく3つのカテゴリーに別れている。手前は発動機の部屋。真ん中はバイクの車庫。一番奥は修理の間となっている。修理の間では、セルシオが大きな口を開けて止まっている。軒下にはびくともしない重量級の発動機が並び、その中に自慢の「東京市」の発動機もドーンと構えている。納屋の奥には、小ぶりな発動機がずらりと並び、その年季の入った発動機たちが、小窓から差し込む冬の朝日を浴びて黒く輝く。その様は実に絵になる。漂うオイルの匂いも演出となる。

HONDA CB750、YAMAHA HS1、リトルホンダ。エンブレムが色褪せたBMW SR1000。ロードバルにモンキー。様々なジャンルの様々な年代のバイクが静かに佇む。収まりきらないバイクが、発動機の部屋を占領している。別棟の倉庫にも、数台眠っているんだから、その数たるや、すごい一言に尽きる。外では、古く錆びたトラクターと並んだ「HONDA NS250R」。このミスマッチな光景も、何だか微笑ましい。

しかし、ゴミに埋もれた形見の軽トラはどこにもなかった。父から兄、兄から秋徳さんへ渡った、その軽トラはこの「秘密基地」にはないんだ。あの話を聞いてから、ずっと想像していた。今日、お目見えできると密かに思っていただけに、ないとなれば余計に想像が膨らむ。

むしろこの形見の軽トラに、踏み入ってはいけないような気さえしてきた。口にはしないが、大切な聖域なのではないかと思えてきた。

エンジンは生き物なんだよ。





年が明けると、いよいよ形見の軽トラを復活させるぞと連絡があった。これ以上、想像と妄想だけではいられず、形見の軽トラを見せて欲しいと話しを切り出した。すると、兄の車庫に止めたままで、ゴミに埋もれているし、到底見せられる状態ではないと言う。それでもいいから、見たいとお願いした。「じゃ、今から行くか！」

ガラガラガラ……

古ぼけたシャッターが開いた。話し通り、てんこ盛りのゴミに埋もれた形見の軽トラが、静かにそこにあった。車種はSUZUKI CARRY。多分、昭和47〜51年製。ゴミで積載量オーバーが原因ではないだろうが、経年劣化でタイヤはべったんこ。サビは当然だし、ガラスも天然スモーク状態。ドアには手書きで「自家用」。でもちゃんと荷台の下から、2気筒エンジンの寝顔が覗く。

この状態だ。廃車証明書も紛失している。どこから手をつけていいのやら……まずは笑うしかない。

形見の軽トラ。どうなるか見当もつかないが、秋徳さんの頭の中では、すでに走っている映像を、思い描いているんだろう。

こうして復活劇が幕明けた。

この形見の軽トラ復活劇は、次号で紹介しよう。

今年も商工まつりで、発動機たちが蘇る。その発動機たちと並んで、この形見の軽トラも息を吹き返しているんだらうか。ひょっとして、発動機を荷台に乗せて走っているかもしれない。産業まつりは、毎年11月3日。今から楽しみで仕方がない。

実は11月3日は、秋徳さんの誕生日でもある。発動機の爆音と煙をバックに、ハッピーバースデーを歌ってあげようと思う。

取材・写真 なみわい 西田雅人



満開の桜の中、うめ丸くんが歌うのは「むつざわ音頭」。昭和58年、町制施行記念にレコーディング！歌うは、なんと！あの大物歌手！？
…次号に向け、調査中…

ハゼ釣りも軽トラでGO！

軽トラ 安心安全コミュニティ

～ 有機野菜「アウルファーム」オーナー喜多さんの名言集 ～

お客さん家の冷蔵庫の野菜室を埋めてあげる

こんちくしょーと思っても、 けちくさい肥料だと やり直しに1年かかる。

肥料の“質”が 味に出る。

虫は当たり前。天気に苦労する。

美味しい。安全。安心。

ドレッシング いらす。環境を作ってやる。でも天候が邪魔をする。

なんと、年間80品目！土と肥料にこだわった、多品目少 だわりは一目瞭然。四季の野菜を個人宅やレストラン

ロットの有機野菜を栽培！喜多さんの名言を見れば、そのこ にお届けしています。「つどいの郷むつざわ」でも販売！

INFO アウルファーム ☎ 0475-36-2106 ☎ 090-7426-9854 🌐 <http://www.2s.biglobe.ne.jp/~owl> ✉ michio-kita@mqb.biglobe.ne.jp

軽トラ 整備編 安心安全コミュニティ

暮らしに、仕事に、日常のあらゆる場面で、何かと活躍してくれる軽トラ。それ故に、メンテナンスはちゃんとしておきたい。むつざわの真ん中に位置する「睦沢マイカーセンター」は、修理に、車検に、新車中古車販売まで。軽トラのことなら、何でもござれ！！軽トラヘビーユーザーも、これから入門のビギナーにも、力強い味方になってくれること、間違いなし！

何でもご相談ください！

INFO 睦沢マイカーセンター 長生郡睦沢町上之郷 2615 ☎ 0475-44-1480

GO! GO! MUTSUZAWA むつざわ軽トラ百景

むつざわの暮らしに、軽トラは欠かせない。

むつざわの日常に、軽トラは当たり前。

むつざわを見渡せば、軽トラが側にある。

むつざわの人たちと軽トラの様々な関係。

さぁ、徳とご覧あれ！

軽トラは
いいよ〜

GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA



01 MUTSU-KEI

DAIHATSU HIJET 2010

ダイハツ ハイジェット 2010 年製

愛用歴：3 年（中古車購入）

走行距離：198,000 km

owner

高橋逸則 (52)

出身：睦沢町

職業：農業 / 林業

DAIHATSU HIJET 2004

ダイハツ ハイジェット 2004 年製

愛用歴：14 年

走行距離：168,000 km



「デコトラ魂」は「愛車魂」

菅原文太主演映画『トラック野郎』シリーズで、社会現象にもなった「デコトラ」。聞くとその昔、ネオン輝く 2 トンの「デコトラ」に乗っていたとのこと。今は 2 台の軽トラ。一見普通の軽トラに見えるが ... 細部と内装のこだわりには「デコトラ魂」が垣間見える。「撮影だから洗車しといたよ」。でも納屋に停まるトラクターなど、どれも手入れがゆき届いている。「デコトラ魂」の裏には「愛車魂」もちゃんと宿る。むつざわの「デコトラ」は〜〜今日もゆく〜〜♪

タコメーターだよ〜



GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA

02 MUTSU-KEI



SUZUKI CARRY 2012

スズキ キャリー 2012 年製

愛用歴：父からレンタル

走行距離：ー



owner

Case / Noriko

出身：アメリカ / 睦沢町

職業：英会話教室



空港のトラック？ゴルフ場のカート？

アメリカ出身のケースさん。はじめて軽トラを見た時、そのスモールさにビックリ！！でも今では、このスモールピックアップ（？）が超〜便利だと。荷台にすっぽりダブルベッドが入った時には、超〜感激したらしい。ハワイから、妻ノリコさん出身のむつざわに来て 1 年。旅好きで底抜けに明るいふたりが営む英会話教室は、遠方からも生徒さんが集まるのも納得。ケースさんがむつざわに馴染めるか心配だったけど、この笑顔！今やどっぷり！むつざわ、超〜満喫！



SUZUKI CARRY 2013

スズキ キャリー 2013 年製

愛用歴：5 年

走行距離：27,000 km



owner

高貫房太郎 (80)

出身：睦沢町

職業：農業

欲出しちゃいけないよ。目標は1日1000円。

文房具店員から、40 トンダンプの運転手まで。缶コーヒー片手に語る人生経験豊富な話は面白い。軽トラも13 台目。丹精込めて作った季節の野菜を毎朝「つどいの郷むつざわ」に納めるのが日課。1日1000 円が売上目標。趣味の古木集めも、床の間に飾れるくらいにまで手をかけ磨き上げる。これも「つどいの郷むつざわ」で販売。「今まで100 本くらい売ったよ。最高は1本19 万円」。謙虚な売上目標とは裏腹に、軽トラと40トンダンプほどの金額差に驚いた…。



TEAM "DAIHATSU HIJET"

チーム"ダイハツ ハイジェット"

愛用歴：いろいろ

走行距離：いろいろ

owner

～房総半島に広がる個性豊かな54ホール～
BOSO 房総カントリークラブ
Boso Country Club 房総ゴルフ場(54H)・大上ゴルフ場(18H)

出身：睦沢町

職業：ゴルフ場整備

見よ、このタイヤこそが…

ゴルフ場と言えば、広大なコースを覆う手入れの行き届いた芝ではないだろうか。その様々な手入れの一役を担っているのが軽トラ。カスタマイズは勿論、芝を傷つけないよう開発された、このタイヤこそが「芝愛」の極みではないだろうか。そして何本ものコースを相手にする訳だ。到底一台や二台じゃ賄えないのは想像できる。荷台に刻まれた背番号から想像するに、相当数の軽トラが従事しているのだろう。謂わば「チーム軽トラ」と言っても過言じゃない。

GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA

GO! GO! MUTSUZAWA



SUBARU SAMBER 4WD (購入予定)

スバル サンバー 4WD

愛用歴：これから

走行距離：—



owner

犬飼ファミリー

出身：八千代市

職業：エンジニア

一年間、千葉中を探してここむつざわに。

ハーフビルドで自宅建築中の犬飼さんは、大手自動車メーカーの技術者として培った経験を生かし、「クラシックカーのレストアがしたいんです」と。「千葉中を探して、たどり着いたむつざわ。自宅前は一面の田んぼ。裏の竹やぶを抜ければ小川が流れている。この環境! 即決でしたよ」。自宅の次は工場に着手。大好きなワーゲンが並び、裏の小川で子供が遊ぶ。これからの生活には、軽トラは必須とのこと。「もう、スバルサンバー 4WD って決めてるんですよ」。



HONDA ACTY SDX 1992

ホンダ アクティ SDX 1992 年製

愛用歴：8 年 (中古車購入)

走行距離：35,000 km



owner

市原 武 (63)

出身：睦沢町

職業：睦沢町長

「軽トラ」には親しみがある

「会合で愛車の話になったんですよ。『私の車は 2 シーターでね〜』『私も 2 シーターなんですよ』と。普通かっこいいスポーツカーかと思うじゃないですか。それは合言葉のようなもので、お互い軽トラを意味してるんですよ」。軽トラには親しみがある。土のついた筈だって、そのまま荷台にひょいと乗せる。気取らない、なくてはならない道具。そう語るのは睦沢町長。今の愛車は3台目。ダンディーなスーツ姿で颯爽と庁舎に乗り付ける愛車は、紛れもなく軽トラ。

ふと気づけば「キャップ」なのだ。
フロントガラスを覗くと、ダッシュボードに「キャップ」が並べてあったりする。
軽トラから降りてくると、決まってキャップを被っている。
ブランド品もあれば、そのほとんどがノベルティー。所謂、非売品。
組合のシンボルや展示会のお土産だったり。ある意味、レア。
ファッション性ではなく、謂わば、日よけ、メンバーの証、時には寝癖隠し！？
しかしどれもこれも愛着感はんぱない！
ならば一同に揃えてみよう。

そこから垣間見える「むつざわ」も、なかなかマニアックじゃなからうか。

MUTSUZAWA FASHION

MADE IN MUTSUZAWA

1.2.3.



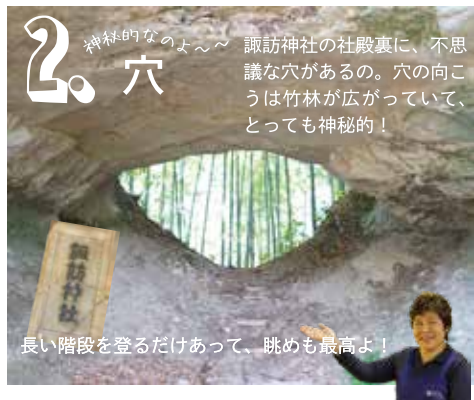
今や「その地を知るなら道の駅へゆけ！」
と言っても過言ではない。むつざわを知
り尽くした店長の目利きはハンパない！

3. 成長が早いよ～～野菜の苗



2. 神秘的な穴

諏訪神社の社殿裏に、不思議な穴があるの。穴の向うは竹林が広がっていてとっても神秘的！



キッズ情報

穴を掘る、火をおこす、木に登る、川遊び。
 “生きる”基本が、遊びから学べる「冒険遊び場」。
 そりゃ〜子供たちの心に火をつける！
 ツリーハウスを見ると、大人だってワクワクする！



每月第2土曜開催！
参加費無料！

睦沢町まっ白い広場事務局
0475-44-2289(松本)



MUTSUZAWA TRIP GUIDE + 編集後記

MUTSUZAWA JOURNAL 創刊号

は、「軽トラのある暮らし」に注目して、むつざわを紹介しました。と言うか、「軽トラ」を取材するにつれ、どっぷりむつざわの魅力にハマってしまったのが正直なところ。コレ！という、何かがある町ではないんですが、それ故に、掘れば掘るほど心揺さぶられる魅力が出てくるんです。今日も学芸員の方から、昼飯も食わずに、むつざわの寺社仏閣についてレクチャーを受けました。腹はペコペコですが、頭は満腹です。GWは田植えのイベントに参加します。夏の盆踊りが今から楽しみです。少しへそ曲がりな新聞ですが、素直なむつざわの魅力を発信していこうと思います。

 ドライブ派 **ツーリング派**

 電車派

 サイクリング派

 むつざわ情報

GO!BO!SO!
MEDIA COMPANY